

アレルギー検査をお考えのオーナー様へ



《検査を行う前に…》

本当にアレルギーが関与しているのか、**除外診断**が必要です。以下は重要なチェック項目です。

□ 病変部位

…食物アレルギーでは四肢端、外耳、脇の下、肘内側、内股に症状が出ることが多いですが、病変部位だけでは食物アレルギーかどうか特定できません。

□ 初発時期

…食物アレルギーは1歳未満から何らかの症状を示すことが多いです。2歳以降の発症では環境アレルゲンによるアレルギーであることが多いです。

□ 排便回数

…食物アレルギーでは排便回数が増える場合があります。

□ 季節性があるか

…環境アレルゲンに対する反応は冬場は落ち着く傾向にあります。

□ 寄生虫、細菌、真菌(カビ)の有無

…ノミアレルギー性皮膚炎やマダニによる皮膚炎、細菌性や真菌性の皮膚炎が無いか調べます。

以上をクリアして、ようやく「アレルギー性皮膚炎かも?」と疑うことができます。

《アレルギー検査の種類》

アレルゲン特異的IgE検査

(40項目)

環境アレルゲン22項目と食物アレルゲン18項目に対してのI型アレルギー(即時型)の反応を調べます。

リンパ球反応検査

(主要食物アレルゲンパネル)

食物アレルゲンに対して、IV型アレルギー(遅延型)の反応を調べます。

「何がアレルゲンになっているか」を主に調べるパネルです。

リンパ球反応検査

(除去食アレルゲンパネル)

食物アレルギーの子用のフードに使われている原材料の中で、「どれなら食べられるか」を調べるパネルです。

※わんちゃんの食物アレルギーでは約30%でI型アレルギー、約80%がIV型アレルギーが関与していると言われています。IgEはアトピー性皮膚炎向け、リンパ球は食物アレルギー向けの検査とお考えください。

※いずれの検査でも血液を外部の検査センターに送り、1~2週間後に結果が返ってきます。

《検査のタイミングと注意点》

アレルゲン特異的IgE検査

- 季節性のある症状が強く出ている時(症状が落ち着いている時に検査をしても正確な結果が出ません)
- 6か月齢以上
- 疑わしい環境アレルゲンが出ている時期かそれ以外かによって検査結果が大きく変わります。
- 薬剤の影響は受けないため、検査前の休薬は不要です。

リンパ球反応検査

- 離乳期移行いつでも検査可能
- 食物アレルギーを疑う特徴があるとき
- 検査を行う季節は指定ありません。
- ステロイド、シクロスポリン(免疫抑制剤)、オクラシチニブ(アポキル錠)の影響で検査値が変動します。
- 可能であれば、**2週間程度休薬してから検査実施**(しかし我慢できなくなればその時点で検査可能)